

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300479		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑		
所在地	栃木県栃木市藤岡町1396-1		
自己評価作成日	平成28年9月23日	評価結果市町村受理日	平成28年11月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りは緑豊かな木々に囲まれ、ホームの中に居ても四季を感じることができる。家庭的な環境のもとで、日常生活の介助を通じて、安心と尊厳のある生活を支援しています。隣接する老健施設との合同運動会、各月の誕生日会、デイサービスで行われる音楽療法、納涼祭などにも積極的に参加し、交流を深めることで、沢山のふれあう機会を設けています。利用者の出来ることを見つけ、役割を持ってもらうことで活気ある生活を送って頂いている。誰か一人でも顔が見えないと、心配して下さる優しい方が多く、馴染の関係も出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、雑木林や田畑に囲まれた、四季折々の季節を感じられる自然豊かな環境に位置している。隣接のデイサービスや介護老人保健施設等と、医療面や災害時等の連携が図られている。運動会、誕生会、納涼等の行事や、マグロの解体ショーや蕎麦打ち体験などは、利用者の楽しみとなっている。チャイルドホームが設立され、職員も安心して勤務でき、離職率が低く利用者との馴染みの関係も保たれている。毎月の定例会にて意見、提案を出し合い、施設長、管理者、職員間の意思疎通を図る他、課題に応じたレポート提出や、内部研修、外部研修を積極的にに行い、職員の資質向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの基本理念、3つの行動指針、毎月の目標をホーム内に掲載すると共に、毎朝の申し送りの際に唱和し、共有化を図り、実践している。	毎朝の申し送り時において3つの行動指針と5つの基本理念を唱和している。目標に向かって確認と反省を行い、日々の支援において共有を図り、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街ではない為近隣住民は疎らであるが、施設運営の月毎の行事に参加したり、保育園児やボランティアの訪問もあり交流が保たれている。定期的に施設の広報誌を発行し、役場、病院などに置いてもらっている。	法人として自治会に入会し、定期的に広報誌を発行し、市役所、病院等に設置している。地域の行事への参加やボランティアの受け入れ等を行う他、事業所の実践経験を活かし地域におけるケアの拠点として講演等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内に複数の介護事業所があるため、ホーム単独ではなく、それらの事業所と連携してボランティアや実習の受け入れ、講演などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	駐在所、民生委員、地域包括支援センター、御家族に出席していただき、情報交換を行ったり、助言を受けている。会議の結果はすべてのスタッフが周知し、ホームの定例会で報告し議題として話し合い、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は2か月に1度、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、駐在所員等の参加により開催している。施設運営状況の報告の他、参加者から素直な意見や要望を受け、協議を重ねながらサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や、運営推進会議の議事録を提出する時などで、運営状況を伝えたり、密に連携をとっている。避難訓練の様子を見てもらい意見を頂いている。	市担当者には、介護保険更新時や運営推進会議の議事録提出時に運営状況の報告をし、アドバイスを受けたり、避難訓練の様子等をみてもらい意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしていない。ホームの前は車の通りが激しいため御家族に説明した上で玄関の鍵をかけている。しかし、要望があれば玄関を開け、対応している。	職員は話しかけ介護十則や介護十戒等を活用し、利用者に与える身体的、精神的苦痛について理解を深めている。身体拘束に該当する行為等の共通認識を図り、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。車通りが激しいため、家族の理解を得た上で玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や、排泄介助時、全身の状態を観察し、傷、痣があった際には原因を確認し、全スタッフが共有できるように、伝達帳に様子を記入している。又、高齢者虐待防止法に関する勉強会を持ち理解を深めている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する勉強会を持ち理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する時は、可能な限り本人にも面会をし、説明を行い納得してもらったうえで、契約をしている。又、解約をする時は、十分な話し合いを持ち退去先や、受け入れ先が決まってから退去して頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している他、毎月ご家族に手紙を送っておりそこに「ご家族様からのご意見ご要望がございましたら、お気軽にお寄せ下さい。」と書いている。又、面会時にもこちらの様子を伝えながら、ご家族の要望も聞いている。	家族等には事業所の苦情受付担当者や外部の苦情受付機関にて意見を表せる機会がある事を説明している。利用料支払い時や行事等での訪問時に積極的に要望を聞きケアに反映するよう心がけている。毎月家族への便りで利用者の生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会やそれ以外でもスタッフからの意見、提案を聞いて運営に反映させている。	職員は毎月の職員会議において意見や要望、提案を管理者に伝えている。日常のケアの方法についての意見や要望が出され、職員の気づきを運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	課題に応じたレポート提出を行うほか、各種研修の案内等も告知して自己啓発しやすい環境を作ると共に、スタッフのスキルアップを意識した運営を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修を行っている他、外部研修にも積極的に参加している。ホームでは、課題を決めてレポートを提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修には積極的に参加をして交流の機会を持っている。又、同法人内の介護サービス事業所との勉強会や、行事などの機会もあり、それらを通じてサービスの質の向上を図っている。他の事業所からの研修を受けている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前には本人と面会をし、心身の状況の他、生活歴や生活環境など、出来る限り聞き取り、その方がホームに入居した場合の生活をイメージしながら相談している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の中でご家族にも十分お話を伺い、施設生活における家族の要望を聞き、今後についての相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人と家族の状況を把握し、何を求めている、何を必要としているかを第一に考えて相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、モップ掛け、食事の味見、食器の片づけなど、それぞれに役割を持ってもらいスタッフと一緒に教わりながら共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や、状態の説明は手紙、電話、面会時に行っている。本人と家族の関係が細かくならないように配慮している。面会の少ない家族に対しては、面会の促しを行いホームの運営の理解と協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や、手紙の希望があれば積極的に支援している。いつでも外出、外泊が出来、ご家族や友人と過ごす機会はいつでも持てる。又、面会者が来られた際には、お茶を出し、くつろぎやすく来訪しやすい環境作りに配慮している。	法人内のデイサービスや介護老人保健施設の友人や、ボランティアの訪問等があった際には、お茶をだしてくつろいでもらったり、来訪しやすい環境作りに努め、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは利用者一人、一人に声を掛け、利用者同士の関係を把握すると共に、トラブルが起きた際には双方の話をそれぞれ納得がいくまで話を聞き、問題解決に繋げる努力をしている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等は随時受け付けており、希望される方には法人の広報誌「やすらぎ」の送付を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や、日々の会話や行動などからも、思いや希望を汲み取り、それらを踏まえたうえで仕事、役割、レクリエーション、行事等を検討している。	センター方式を活用し、日々の関わりの中で傾聴する姿勢で思いや意向の把握に努めている。家族から得た生活歴等の情報も参考にしながら本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時のヒヤリングのほか、入居後の何気ない会話にも注意を払い、センター方式を活用してこれまでの生活の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を生活記録に正確に記録し、また、定例会等を通じて全スタッフが個人の情報を共有し、状況を把握してケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族のヒヤリングを基に、医療関係者、介護スタッフの意見を加味してケアプランを作成している。状態に変化が見られた場合には随時見直しを行っている。	利用者及び家族のニーズを踏まえ、サービス担当会議や連絡ノートを活用しながら介護計画を作成している。見直しは6か月毎としているが、状態に応じた見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録表を整備し、事柄だけでなく、会話の内容や表情も記録している。それらのファイルは、スタッフがいつでも目を通せる場所に保管しており、情報を共有しながら介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム単体のみならず、法人内の他事業所と連携し、本人と家族の希望や状況に応じた対応、支援をしている。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設の利用、ボランティアや、実習生の受け入れなど、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者各々のかかりつけ医はご家族にお願いしている。協力医療機関においては、職員対応で受診している。受診時には本人の状況を的確に伝えられるよう状況表や、各種記録物を持参してスムーズな診察が受けられるよう支援している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しており、受診時の付き添いは家族対応としている。協力医への受診は職員対応のもと行っている。受診結果や処方箋等の情報共有を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に看護師が複数名おり、当ホームを訪問し、利用者の日常の健康管理の他、スタッフの相談も請け負っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と医療関係者で話し合ってもらおうと共に、計画作成担当者が家族(必要に応じて、医療関係者)と連絡を密に取り、早期退院に向けた対応をその都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」を作成し、当法人の方針について家族への説明を行い理解をいただき、重度化や終末期に備え準備している。又、現状ではどこまで支援が出来るかの見極めを行い、早期段階から家族、主治医と相談する機会を持ち情報交換を行い、入院や他のサービスの利用を含め本人と家族の意向を尊重し、納得する方針に沿った対応を心掛けている。	重度化や終末期に向けた利用者及び家族の意向を踏まえながら、看取りの指針に基づき家族に説明し、対応方針を共有している。これまで看取りの経験はないが、事業所の力量を考慮し、家族や医療機関等と連携を図りながら出来る限り要望に沿った支援に取り組んでいく構えがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会により、事故発生時の初期対応などを習得している。又、医療機関や看護師、スタッフとの連絡網を整備し、スムーズな対応が取れるように努めている。緊急車両の要請についても地域の消防署との通報訓練により備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、通報訓練、消火訓練、夜間想定訓練を定期的実施している。消防署とも連携を図りながら行っている。運営推進会議に出席して頂き、助言を頂いている。	消防署の指導の下、避難訓練、通報訓練、消火訓練、夜間想定訓練を定期的実施している。職員達の役割分担を決め、連携して災害時に備えている。備蓄等は同法人の介護老人保健施設で一括保管している。	職員だけの誘導の限界を踏まえ、地域の人々の協力が得られるよう、緊急連絡網に自治会長や民生委員を組み入れる等、地域の協力体制強化に取り組むことを期待したい。

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の介護を通して、利用者の状態(精神的、身体的)を把握しており、それぞれの利用者に応じた対応ができるよう、定例会で意見を交換し、全スタッフが同じ対応が出来るようにしている。	利用者の自己決定を重んじながら、優しく話しかけることを基本としている。トイレ誘導にはさりげない声掛けを行う等、日頃から誇りやプライドに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、自己決定をしていただけるよう「お伺い」を立ててから行動している。また、「促し」や「励まし」によって自発的に行動して頂けるよう工夫し、声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を保てるよう、基本的な時間割はあるが、本人にペースを尊重し、「お伺い」をたててから行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選んで着ていただき、スタッフは季節や気温、汚れなどに気を遣いサポートしている。又、理美容については、本人の希望に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは出来る範囲で手伝って頂いている。昼食はスタッフ一人が利用者と同じ食事を摂り、会話を楽しみながら食べている。パンバイキング、外食会、お弁当の日を設け、楽しんで頂けるよう工夫している。	誕生日等は利用者の希望を聞き、外食、バイキング、お弁当等と取り入れ、食事を楽しめる支援に努めている。職員と利用者が一緒に会話をしながら食事し、後片付け等も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを考えた献立を管理栄養士が作成し、毎食後食事摂取量をチェックしている。水分を摂っていただくよう摂取量が少ない方にはその都度声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に口腔体操を行い、食後はスタッフが声を掛け、個々に必要な歯磨きの支援をしている。又、入れ歯は定期的にスタッフが消毒している。		

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日個別の排泄記録をつけて、排泄パターンを把握し、時間ごとのトイレ誘導と使用物品の工夫により対応している。	排泄記録をもとに一人一人の生活リズムに沿った声かけや誘導を行い、出来る限りトイレでの自立した排泄ができるよう支援している。失敗時には本人のプライドや羞恥心に配慮し、人目に触れないようさりげない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操を実施し、こまめな水分摂取にも配慮している。また、食事以外でも希望者には、牛乳やヤクルト等を出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望の確認を行い、時間帯や長さもできる限り本人の希望に合わせて配慮している。拒否がある方は、職員を変えたり、声かけを工夫し対応している。	入浴は週2回～3回実施し、利用者の希望や身体状況に配慮した支援をしている。入浴拒否傾向のある利用者には無理強いせず声かけの工夫をして、柔軟に対応している。入浴剤を活用する等、入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息している方が居る時や夜間は大きな物音に注意し、寝付けない方がいる時はゆっくり話し相手になり、温かい飲み物を提供したり、安心して再入眠できるよう一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容を把握できるよう、薬の提供書をファイルしており、いつでも処方された薬に関する情報が確認できる。又、薬の変更があった際は、医療ノートにも記入し、出勤したスタッフにすぐ分かるようにしている。協力病院の薬剤師とは、24時間連絡を取ることができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や、食事の片付けなど、出来ること、出来そうなことは、手伝って頂けるよう促している。うどん作りや、おまんじゅう作りなど馴染の深いものは教えて頂きながらスタッフと一緒に作業することを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外でレクリエーションを行ったり、散歩、ドライブなど外に出る機会を多く設けている。プランターで花や、野菜を栽培し、水やりなどをお願いしている。本人の希望に応じて、家族に外出の協力を仰いでいる。	日常的に事業所周辺を散歩したり、野外でレクリエーションを行ったりと、戸外に出る機会を作っている。家族の協力を得ながら、季節に応じた花見やドライブなど、本人の希望に応じた外出支援に取り組んでいる。	

グループホーム八州苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理しているが、小銭程度のお金を持っている方もいる。お金に執着がある方は小銭を財布に入れ常に持っていられるようにしている。お金の出し入れがあった場合は、出納帳にレシートを保存し、家族が面会時に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との通話の際はコードレスフォンを利用して居室内で電話して頂いたり、手紙を送る際は施設の封書に同封したりと、大切な方との連絡を取るサポートをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	くつろげるソファを置いたり、利用者が作成した作品や装飾などを季節ごとに変えている。テレビの音量、日差しの調整は利用者確認を取りながら快適に過ごして頂けるよう配慮している。	共有空間は天窓が設けられた明るい空間で、温室度も適度に調整されている。リビングには利用者手作りのちぎり絵や塗り絵が飾られ、生活感や季節感を出している。くつろげるソファを置くなど、心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にも玄関にソファを置くことにより一人でも、気の合った同士でも過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は使い慣れているものを用意して頂けるようご家族にお願いしている。ご家族の写真や、若い頃の写真を飾る事で、落ち着いた空間になるよう工夫している。	馴染みの寝具や家具、小物類が持ち込まれ、利用者それぞれの居心地の良い居室作りがなされている。手工芸品や家族の写真等が掲示され自宅とのギャップを感じさせない工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内への手すりの設置や物干し台の高さの調節などで、身体に合った工夫をしている。又、それぞれの人が分かりやすいよう表示、掲示物の大きさ、高さの調節を行い、利用しやすい環境作りに努めている。		